

Economic Indicators

発表日: 2022年12月15日(木)

貿易統計(2022年11月)

～欧米向け実質輸出は想定より底堅いが、先行きは楽観視できず～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

	貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量					
	原数値	季調値	輸出金額	輸入金額	前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア	
			前年比	前年比		前年比	前年比	前年比		前年比	前年比		
21年	1月	▲ 3,707	5,402	6.4	▲ 8.9	5.5	▲ 8.7	▲ 4.1	18.6	▲ 4.0	▲ 10.4	▲ 11.2	▲ 2.6
	2月	1,673	▲ 881	▲ 4.5	12.7	▲ 4.2	▲ 16.4	▲ 6.6	0.1	22.0	▲ 7.9	1.5	44.1
	3月	6,098	2,000	16.1	6.5	12.9	3.9	7.6	20.9	3.8	▲ 0.5	9.3	8.7
	4月	2,179	22	38.0	13.2	28.7	37.8	30.8	23.3	1.0	▲ 4.8	5.2	4.3
	5月	▲ 2,179	482	49.6	28.1	38.5	77.6	58.7	21.6	6.8	5.0	23.2	7.1
	6月	3,612	▲ 1,733	48.6	32.9	37.3	79.7	43.3	26.2	8.2	9.0	26.9	8.8
	7月	4,284	▲ 221	37.0	28.2	25.2	19.4	38.4	20.4	1.9	2.1	▲ 0.6	4.6
	8月	▲ 6,634	▲ 2,702	26.2	44.9	13.7	13.2	29.2	11.0	14.4	12.8	28.1	13.2
	9月	▲ 6,489	▲ 5,729	13.0	38.7	3.3	▲ 9.8	15.3	8.9	7.4	17.0	6.1	6.7
	10月	▲ 907	▲ 3,183	9.4	27.1	▲ 3.1	▲ 8.2	5.2	▲ 0.1	▲ 3.0	2.0	2.3	▲ 4.3
	11月	▲ 9,736	▲ 5,481	20.5	44.1	4.2	▲ 2.8	10.8	5.4	6.0	17.2	24.2	2.2
	12月	▲ 6,031	▲ 5,253	17.5	41.4	1.6	6.7	3.4	▲ 0.5	0.9	8.7	5.1	0.9
22年	1月	▲ 21,994	▲ 9,340	9.6	38.7	▲ 4.1	▲ 1.0	9.7	▲ 10.5	4.8	4.7	20.9	3.9
	2月	▲ 6,772	▲ 10,447	19.1	34.0	2.8	5.0	2.1	6.1	▲ 0.8	6.1	12.8	▲ 5.4
	3月	▲ 4,240	▲ 10,134	14.7	31.3	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.1	2.7	▲ 0.3
	4月	▲ 8,538	▲ 15,669	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.7	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 10.1	5.1	▲ 15.6
	5月	▲ 23,906	▲ 19,041	15.8	48.8	▲ 3.5	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.4	3.1
	6月	▲ 14,042	▲ 19,219	19.3	46.0	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.7	▲ 6.5	2.0
	7月	▲ 14,449	▲ 21,146	19.0	47.3	▲ 1.9	▲ 5.6	17.3	▲ 2.0	2.2	17.5	▲ 4.0	2.2
	8月	▲ 28,248	▲ 23,338	22.0	49.8	▲ 1.2	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	3.9	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,998	▲ 19,554	28.9	45.8	3.8	18.3	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.2
	10月	▲ 21,662	▲ 22,076	25.3	53.5	▲ 0.4	4.8	9.3	▲ 6.1	5.7	4.9	22.9	6.0
	11月	▲ 20,274	▲ 17,323	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.6	3.3	▲ 4.7

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○11月も大幅な貿易赤字が続く。実質輸出は想定より底堅いが、楽観視できず。

財務省より発表された11月の貿易統計では、輸出金額が前年比+20.0%（事前予想：+19.7%）、輸入金額が同+30.3%（事前予想：+27.0%）、貿易収支は▲20,274億円の赤字（事前予想：▲16,803億円の赤字）となった。原油相場と円安進行の一服感から11月は輸入物価にピークアウトが見られたことで、輸入金額も前年比での伸び幅を大きく切り下げた。一方で、輸出金額の伸び率を輸入金額が依然として上回ったことで、貿易収支は大幅赤字での推移が続いた。季節調整値で見ても輸出が前月比▲1.3%、輸入が同▲5.3%とそれぞれ減少し、貿易収支は▲17,323億円の赤字となった。

物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）は、前月比▲0.1%となった（実質化と季節調整は第一生命経済研究所）。前月比で小幅減少となったが、9月（同+1.7%）、10月（同+1.0%）と上振れていた後を考えると、実質輸出は底堅い印象だ。10-11月平均で見ると7-9月期対比+2.1%pt上回っており、10-12月期は2四半期連続の増加となる見込みだ。金融引き締めによる悪影響が懸念されていた米国向けや欧州向けは想定よりも底堅く推移しており、足元では緩やかな増加傾向を崩してい

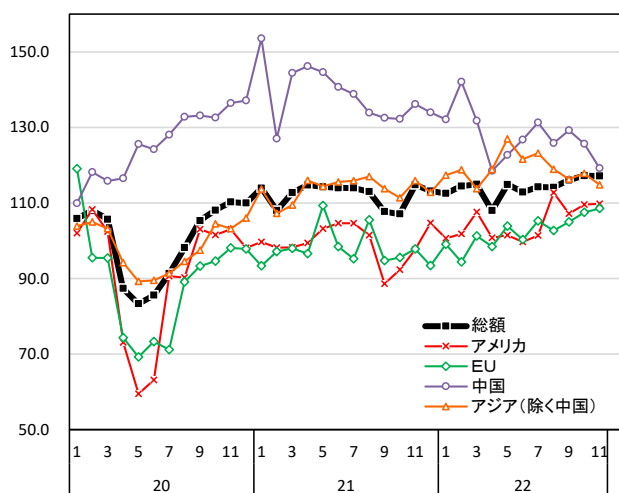
ない。一方、ロックダウン解除後も低迷が続いている中国向けだが、11月は中国国内で再び感染が拡大していたことから減少傾向を強めている。アジア向けが輸出全体の重荷となる中で、23年は欧米の経済減速が明確化する見通しであることを踏まえると米国向け、欧州向けも今後悪化する可能性が高く、実質輸出の先行きは楽観視できない。

○足元の米国向け、欧州向けは増加基調を崩さず

実質輸出の季節調整値を国・地域別に見ると、米国向けが前月比+0.2%（10月：同+2.2%）、欧州向けが同+1.0%（10月：同+2.4%）、アジア向けが同▲3.5%（10月：同▲0.2%）、アジア向けのうち中国向けが同▲5.1%（10月：同▲2.8%）となった。

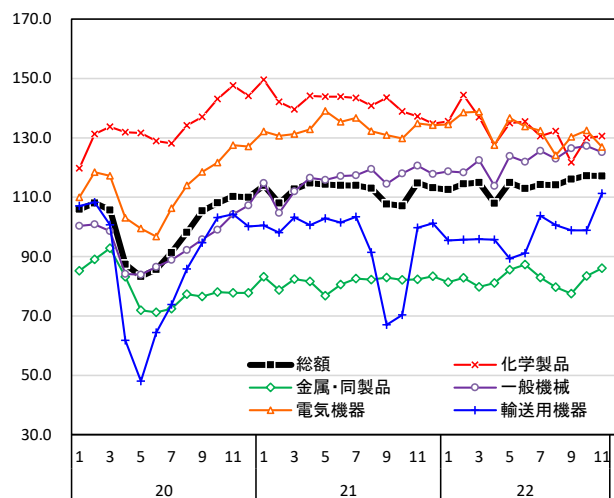
米国向けや欧州向けは、7-9月期に自動車輸出の回復が牽引して前期比で高い伸びになった後、10-11月平均も7-9月期対比で上回る伸びとなり、緩やかな増加傾向を維持している。一般機械や電気機器が、予想より底堅く推移していることが輸出を支えている。一方、中国向けは足元で減少傾向を強めている。中国向けは、感染拡大とロックダウンの影響で4-6月期に前期比▲9.4%と大きく落ち込んだ後、7-9月期は同+5.0%といくらかの反動増は見られたものの、10-11月平均は7-9月平均対比▲5.0%pt下回っており前期の回復を帳消しするペースだ。厳格なゼロ・コロナ政策の影響が残存する中で、中国の影響力が強いASEANも4カ月連続の減少となっており、アジア向けは低迷した状態が続いている。アジア向けが減少傾向を辿る中で、今後は欧米諸国の景気悪化が明確化していくことで、輸出は減少傾向に向かう可能性が高いだろう。

地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所) 財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。